

## 編集後記

△ 芸能の歴史的研究を、趣味的な欲求にもとづくものから解放して、より総合的により科学的に前進せしめる作業は、現在におけるわが国文化の伝統を再発見し、かつその創造をはっきりと見定めてゆくためにも、今やかくことのできぬ課題となりつつある。去る二月十日を契機として、力強くその第一歩をふみだした本会もまた、そうした課題にこたえようとするものである。本誌を通じて、一人でも多くの人々が、今日における芸能史研究の課題を発見し、それぞれの立場から自由に問題を提起して御寄稿いただくことを切望する。そのことがまたこれまでの芸能史研究の視角や方法の再検討をうながし、学界の共有財産を豊かにしてゆく手近な道でもある。

△ 創刊号の巻頭をかざる林屋論文は、従来の茶道史上において完全に無視されていた「茶道全書」の成立をめぐって、中世的秘伝からの解放がいかなる条件のもとになされたかを考察した示唆にとむ力篇であり、天正狂言本

にみられる々当代劇としての狂言々の性格を指摘された北川論文、「大小の舞」を中心に初期歌舞伎における「舞」の成立を考察された服部論文なども、今後の研究に寄与するところが少なくない。

△ 芸能ジャーナルは、東西の執筆者による御協力によって充実したものと なったが、親しみのあるページとしてより工夫をこらしてゆきたい。なおカ ット写真は都名所図絵・花洛細見図録 から選んでいる。芸能史ノートには角 田氏の興味ある論稿をえたが、中村氏 の能面に関する資料紹介は、今後も随 時掲載の予定である。最後になった が、英文タイトルについては菅泰男・ 喜志哲雄両氏の御配慮をいただいでい る。あつく感謝する。(上田正昭)

一九六三年四月二五日印刷  
一九六三年四月三〇日発行 二五〇円

### 藝能史研究 第一号

発行所 芸能史研究会

京都市上京区河原町広小路

立命館大学日本史研究室付

振替 京都五八七

印刷所 明文舎印刷株式会社

京都市上京区今小路御前西